

本(サムライ)の

福岡県立図書館 青少年コーナー



十一月のおすすめ

全て貸出できます。
貸出されていたら
予約も受け付けていま
す！



「西向く侍」とは何か、みなさん御存知ですか？

二・四・六・九・十一月のように月の終わりが三十一日までない月を覚えるためのごろ合わせです。十一月が侍なのは、武士の土という文字を十と一に縦に分けることができるからです。今回は、「土(サムライ)」をテーマに本を紹介します。

サムライと言えば、「剣」ですね。

まずは、現代の世の中で、剣の世界に生きる剣道部員。宮本武蔵に憧れる熱血剣道少女と、そのライバルのお話です。



『武士道セブンティーン』

菅田 哲也/著

文藝春秋 E/46/4

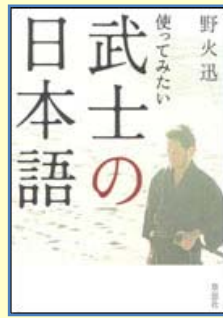
昨年度の「中高生が主人公の本」という特集をした時に紹介した『武士道シックスティーン』の続編小説です。

中学時代に剣道エリートだった香織は、日本舞踊を活かした動きをする剣道経験の浅い早苗に小さな大会で負けてしまいます。偶然同じ高校に進学した二人は時に衝突しながらも、一年間ライバルとして成長してきました。

今作では、二年生になった早苗が、親の転勤で福岡の剣道強豪校に転校します。転校先では、練習方法や剣道に対する考え方に馴染めず悩んでいました。一方、香織は後輩指導に精を出していましたが、友人のいじめ事件に巻き込まれることに。

二人は、やがて夏のインターハイで再会するのですが…。さらに続編の『武士道エイティーン』もあります。

香織は武蔵の言葉が詰まった『五輪の書』が座右の書でした。宮本武蔵が活躍した時代は、どのような侍どろしの会話があったのでしょうか。



『使ってみたい』

武士の日本語』

野火 迅/著

草思社 810/25/11

①ちよこざいなり ②これはしたり ③それは重畳（ちよこざいよう）。これがどういう意味だか、わかりますか？

①は、なまいきな！、②は、これは驚いた、③は、大変結構なことだという意味です。

時代小説や時代劇などで見かける武士の世の中で使われていた言葉の数々を紹介しています。言葉の意味だけでなく、どのような場面で使われているかを時代小説のワンシーンから引用して紹介してありますので、武士の世の雰囲気伝わってきます。

「腹が減っては軍（いくさ）はできぬ」や「武士は食わねど高楊枝」というような食べることに関する武士の言葉もよく耳にするものですよね。彼らは、どのようなものを食べていたのでしょうか。



『幕末単身赴任』

下級武士の食日記』

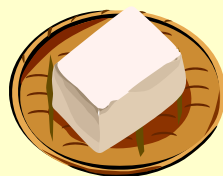
青木直己/著

NHK出版 383/8/437

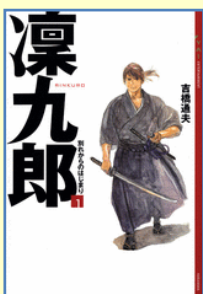
幕末のころ、紀州藩（今の和歌山県）の勤番侍・酒井伴四郎が書き遺した日記をもとに江戸時代の下級武士の食生活を紹介しています。

紀州藩を出てから江戸に着くまでの道中で食べたもの、江戸についてから外食したもの、自分で作って食べるようになったものとして、そば、どじょう、ぼらの潮煮、豚鍋、豆腐、汁粉などのものが日記には細かく残されています。

食生活だけでなく下級武士としての単身赴任生活も描かれています。今のサラリーマンとそんなに変わらないようです。



酒井伴四郎は、刀を取って戦うことはありませんでしたが、次の本は、幕末の世に用心棒することになった気が弱い青年のお話です。



『凧九郎 1』

別れからのほじまの』

吉橋 通夫/著

講談社 913/3/11

八木道場の内弟子、凧九郎は幼いころに両親を亡くしたことから、人を傷つけることを恐れるようになりました。その

ため、剣の才能はありますが、力を発揮できませんでした。

ある日、師範代に外国人公使を切り殺すよう命じられますが、それを断った凧九郎は誤って師範代に怪我を負わせてしまい道場を破門されます。

職を求めて知人のところを訪れた凧九郎は、用心棒の仕事を紹介されます。戦うのではなく、護衛対象を連れて逃げるだけでいいということで、気が進まないまま引き受けてしまうのですが…。

次の本はサムライが持つ刀に注目してみます。時代小説や時代劇のアクションシーンは欠かせないものですが…。



『さむらいの刀は
どうして折れない?』
数の世界を楽しむ』
アンナ・チエラソリー/著
世界文化社 410/189

フィーロは九歳の男の子。普段の暮らしの中で、「どうして?」と思うことがたくさんあります。フィーロの相談相手は、もと数学教師のおじいちゃんです。おじいちゃんは、フィーロの日常の疑問に対して子供でも分かるように、数学の知識を活かして次々と答えていきます。

タイトルになっている「さむらいの刀はどうして折れない?」には、指数と対数の考え方を使って分かりやすく説明しています。

最後に、今も残るサムライの時代の足跡ともいえる「お城」の本を紹介します。



『城郭みどころ事典』
西国編』
西ヶ谷 恭弘・光武 敏郎/編
東京堂出版 521/82/126

「城郭」のはじまりは、家が立ち並び、土塁で囲まれた区画でしかありませんでした。

やがて、戦国時代になると、軍事上の拠点に、応戦態勢の取れるものになります。さらに時代が進んで、織田信長のころになると、我々が持つ城のイメージのような石垣・櫓・天守閣のあるものが全国的に広がっていきました。

見学に出かけるのに適した季節や時間帯、おすすめの写真撮影スポットなどを中心に西国（西日本）の城を多数紹介しています。出かけたときに休みで見学できないということがないように連絡先も掲載されているところも便利です。福岡県内では、福岡城、柳川城、篠山城、小倉城が紹介されています。

以上六冊を「士(サムライ)」というテーマで紹介しました。これ以外にも「士(サムライ)」の本をたくさん揃えています。ぜひ、御利用ください。また、同時に「家づくり」の本も集めています。「青少年と暮らしの交流室」(青少年コーナー)でお待ちしています。

No.	資料ID	書名	巻号	著者名	出版者	出版年	請求記号
1	1106985995	武士道セブンティーン		誉田/哲也 著	文藝春秋	2008.7	F ホ46 4
2	1106774478	使ってみたい武士の日本語		野火/迅 著	草思社	2007.9	810 25 11
3	1106147339	下級武士の食日記		青木/直己 著	日本放送出版協会	2005.12	383 8 437
4	1106121397	凧九郎 1	1	吉橋/通夫 [著]	講談社	2006.12	913 ヨシ S
5	1106457577	さむらいの刀はどうして折れない?		アンナ・チェ ラゾーリ 著	世界文化社	2006.8	410 189
6	1106709864	城郭みどころ事典 西 国編		西ヶ谷/恭弘 編	東京堂出版	2003.9	521 82 126
7	1107010900	面白いほどよくわかる 武士道		森/良之祐 監 修	日本文芸社	2007.1	156 72
8	1106237239	NHKその時歴史が動い た 戦国立志編		NHK取材班 編	ホーム社	2006.2	208 25
9	1107014338	真説幕末最強は誰だ?			一水社	2008.10	281 04 513
10	1106887922	ビジュアル戦国1000人			世界文化社	2009.1	281 04 529
11	1107039255	上杉謙信		加来/耕三 著	ポプラ社	2009.4	289 11 998
12	1107039267	直江兼続		加来/耕三 著	ポプラ社	2008.12	289 15 305
13	1106748361	日本100名城公式ガイ ドブック		日本城郭協会 監修	学研	2007.7	521 82 121
14	1106709876	城郭みどころ事典 東 国編		西ヶ谷/恭弘 編	東京堂出版	2003.9	521 82 126
15	1106235856	吾妻鏡 1	1	竹宮 恵子 著	嶋中書店	2004.11	726 1 404-1
16	1106237456	黒田・三十六計 1	1	平田 弘史 著	リイド社	2003.6	726 1 408-1

「士(サムライ)」の本
展示資料リスト(いずれも貸出可)

No.	資料ID	書名	巻号	著者名	出版者	出版年	請求記号
17	1106859253	武士語で候。		もんじろう運営委員会 著	綜合法令出版	2008.9	810 25 12
18	1107057303	松本道弘のサムライ英語学習法		松本/道弘 著	たちばな出版	2009.7	830 7 148
19	1103103497	しゅてんどうじ		木島/始 構成・文	リプロポート	1993.10	E シ
20	1106603491	花天新選組		越水/利江子 著	大日本図書	2008.4	F コ150 2
21	1106803420	天地人 下		火坂/雅志 著	日本放送出版協会	2006.9	F ヒ63 3
22	1106803418	天地人 上		火坂/雅志 著	日本放送出版協会	2006.9	F ヒ63 3
23	1106748652	武士道シックスティーン	1	誉田/哲也 著	文藝春秋	2007.7	F ホ46 3
24	1107057479	武士道エイティーン	3	誉田/哲也 著	文藝春秋	2009.7	F ホ46 9
25	1107042059	たまごを持つように		まはら/三桃 著	講談社	2009.3	F マ144 2
26	1106982240	凧九郎 2	2	吉橋/通夫 [著]	講談社	2007.11	F ヱ82 1-2
27	1106982253	凧九郎 3	3	吉橋/通夫 [著]	講談社	2008.6	F ヱ82 1-3
28	1205268006	鳩よ! 第18巻第2号通巻190号			マガジンハウス	2000.2	M L 641